

## 第 47 回大阪市環境審議会 議事要旨

日 時：令和 8 年 1 月 13 日（火）10 時 00 分～11 時 30 分

場 所：環境局 第 1・2 会議室（一部委員は WEB にて参加）

議 題：

- （1）会長選出等について
- （2）「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」（案）について
- （3）その他

出席者：

- （委員）貫上会長、今西会長代行、岩崎委員、岸本委員、弦間委員、塩見委員、春名委員、日裏委員、松井委員、雪本委員、秋元委員、石川委員、荒神委員、鈴木委員、辻岡委員、松本委員、村上委員
- （事務局等）井原環境局長、井上環境局理事兼エネルギー政策室長、河合環境施策部長、北浦エネルギー政策担当部長、川戸環境施策課長、大谷エネルギー政策担当課長 他

配付資料：次第

配席図

大阪市環境審議会委員名簿

資料 1 大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕の改定について

資料 2 大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕改定案

参考資料 地球温暖化対策計画における対策の削減量の根拠

参考資料 大阪市環境審議会規則

参考資料 第 46 回 大阪市環境審議会議事要旨

### 【議事要旨】

- ・推薦により、貫上委員が会長に選出された。
- ・資料 1、2 より、「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」（案）について、事務局が説明を行い、本日の委員意見を踏まえた修正を行ったのち、スケジュールに基づいて改定を進めることが確認された。

### 【委員意見】

- 二酸化炭素だけでなく、その他温室効果ガスの削減に関しても、きっちり対策していることを、より明確に記載するほうがよい。
- 2030 年度と 2050 年における温室効果ガス排出量削減目標図は、国の目標の 2035 年度 60%、2045 年度 73%削減を満足しており、国際社会と目標が共有されていることを、より明確に記載されたい。

- COP30 では、クライメート・ネイチャー・シナジーといった言葉が主流化してきているので、そのような内容を記載されると、大阪市の取組の先導性が伝わると思う。
- 温室効果ガス排出量の減少傾向の要因をしっかりと見極める必要がある。これまでは原子力発電所の再稼働による電力の排出係数の改善の影響が大きかったが、今後は原子力発電が増えず、この改善効果も見込めないことを理解したうえで、対策していく必要がある。
- ペロブスカイト太陽電池や水素に関する施策は高コストであることを認識したうえで、どのようなところを重点化し、将来に繋がる形で支援していくのかをよく考える必要がある。
- パリ協定の 1.5 度目標達成は厳しく、地球温暖化は避けられない状況であるため、適応策が非常に重要であり、レジリエンスの強化もあわせて進めて頂きたい。
- ネクストグリーンプロジェクトがこれから大きく打ち出されていくことになるが、同時に、市民・事業者の自主的な取組が重要となることを、わかりやすいリーフレットなどで提示されたい。
- リーフレット等を作成する際には、ネクストグリーンプロジェクトの各施策が、市民の意識改革や技術の普及促進などフェーズが異なるものが挙げられているが、それぞれの考え方が分かる形で整理されると、より市民にわかりやすい。
- 環境への取り組みに対する発信の仕方は、我慢するというようなものが多いが、楽しみがあるという観点の情報発信も必要ではないか。